

信州と上州の蚕糸業を比べてみると

- ・富岡製糸場と上州の蚕糸業
- ・上州の蚕糸業と信州を比べてみると

富岡製糸場総合研究センター
今井 幹夫

世界遺産の登録(H26. 6. 26)

- 四施設は生糸の大量生産のための一貫した優れた見本である。
- 富岡製糸場は、産業としての養蚕技術をフランスから日本に、早い時期に、完全に移転することに成功したことを示している。
- 設計段階から工場を大規模にしたこと、西洋の最良の技術を計画的に採用したことは、日本と極東に産業の方法論が伝播する決定的な時期だったことを示している。
- 19世紀後半の大きな建造物群は和洋折衷という日本特有の産業建築様式の出現を示す卓越した事例である。

国宝指定（H26.12.15）

- ① 富岡製糸場は、明治5年政府が設立した模範器械製糸場である。
- ② 繰糸所・東西の繭倉庫は木骨煉瓦造による長さ100mを超える雄大な建造物で、工場の中核として我が国の器械製糸工場の模範となった。
- ③ 政府の産業近代化の政策を端的に物語り、世界の絹文化の発展に大きく貢献した我が国の絹産業の拠点施設であり、文化史的に深い意義がある。

蚕糸類の輸出激増の影響

- 生糸の粗製濫造問題

- ① 良質の生糸と偽って劣悪な生糸を混ぜる。
- ② 生糸を結わえる束紙を幾重にも巻いて重量を増やす。
- ③ 切れた生糸を結わえないまま巻き取る。

- 蚕種の粗製濫造問題

- ① 蚕種によく似た菜種を種紙に貼り付ける。
- ② 蚕種の粒数を減らす。
- ③ 悪質な蚕種を混ぜる。

イギリス公使館による 養蚕地帯の実態調査

第1回 1869年6月22日～7月6日

第2回 1870年6月6日～7月14日

• 報告書の提言 明治3年1月

- ① ヨーロッパの製糸器械と製糸法を速やかに導入すること。
- ② 多額な資本を要するが、現状では無理である。
- ③ 大工場は年間操業可能の繭の確保が必要である。
- ④ この条件を満たすのは上州か信州である。

模範製糸場の設立の儀

明治3年2月に決定

- ① ヨーロッパの製糸器械を導入する。(加工場制度)
- ② 外国人を指導者とする。
- ③ 日本全国から工女を入場させ新技術を学ばせる。
- ④ 新技術を習得した工女は地元の指導者とする。

工場制度

1 労働環境

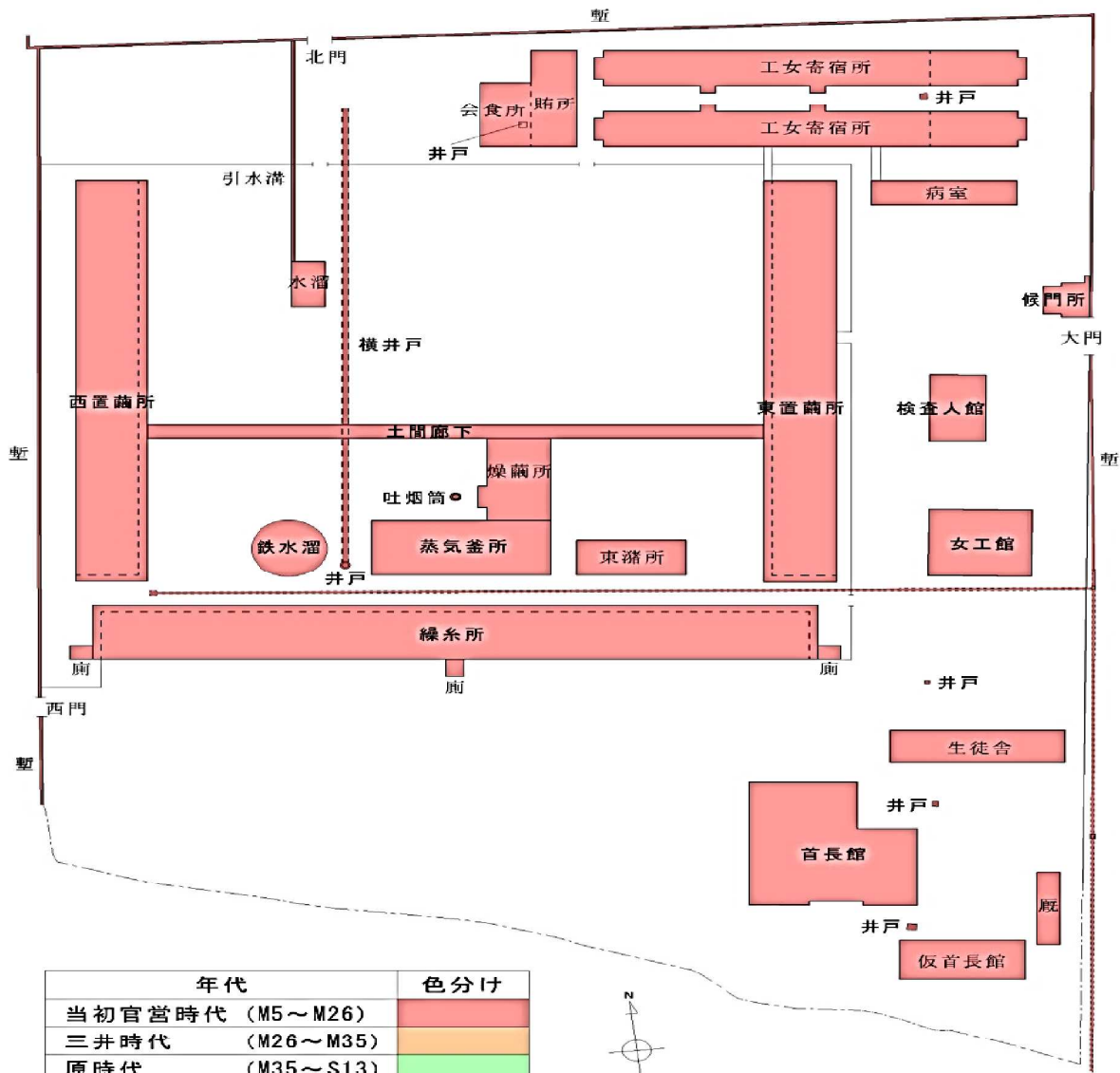
- ・1日平均労働時間=平均 7時間45分
- ・日曜制の導入

2 賃金体系(能率給が原則)

1等工女、2等工女、3等工女、等外工女

3 福利厚生

- ・病院の設置(自己負担ナシ)
- ・食事は自己負担ナシ
- ・休日
諸祭日(6日)、年末年始休(10日)、暑休(10日)他



年代	色分け
当初官営時代 (M5~M26)	赤
三井時代 (M26~M35)	黄
原時代 (M35~S13)	緑
片倉時代前期 (S13~S20)	青
" 後期 (S21~S62)	黄
不明	

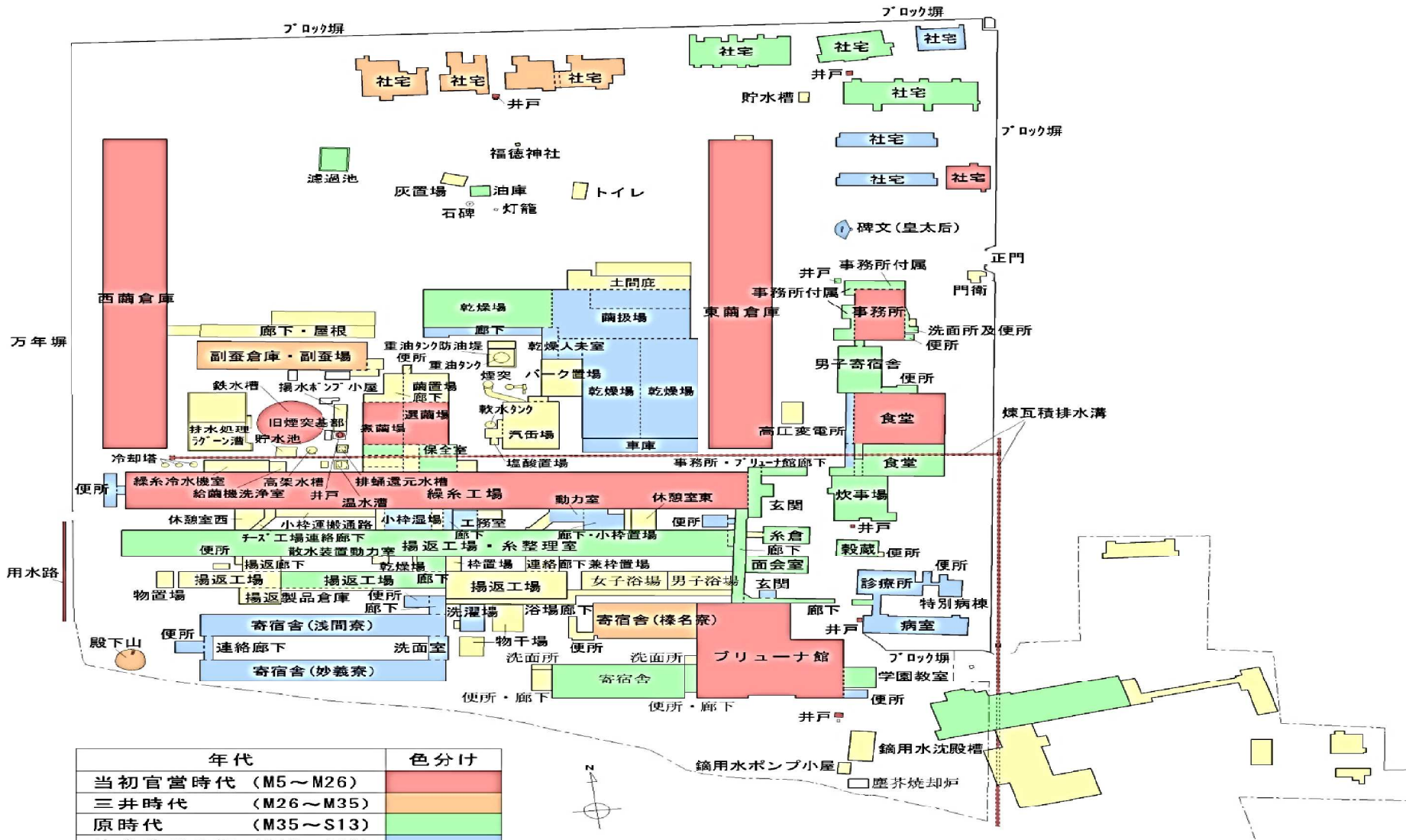
(M:明治 T:大正 S:昭和)

ゴシック:現存 明朝:欠失



官営完成期 (明治8年(1875))

「農務局二勤農局事務引継ノ件」(明治14年)他より



年代	色分け
当初官営時代 (M5~M26)	赤
三井時代 (M26~M35)	オレンジ
原時代 (M35~S13)	緑
片倉時代前期 (S13~S20)	青
” 後期 (S21~S62)	黄
不明	

(M:明治 T:大正 S:昭和)
 ゴシック: 現存 明朝: 欠失

操業停止直前 (昭和61年(1986))
 昭和61年片倉工業株式会社作成図面より

FUJIFILM RDP11

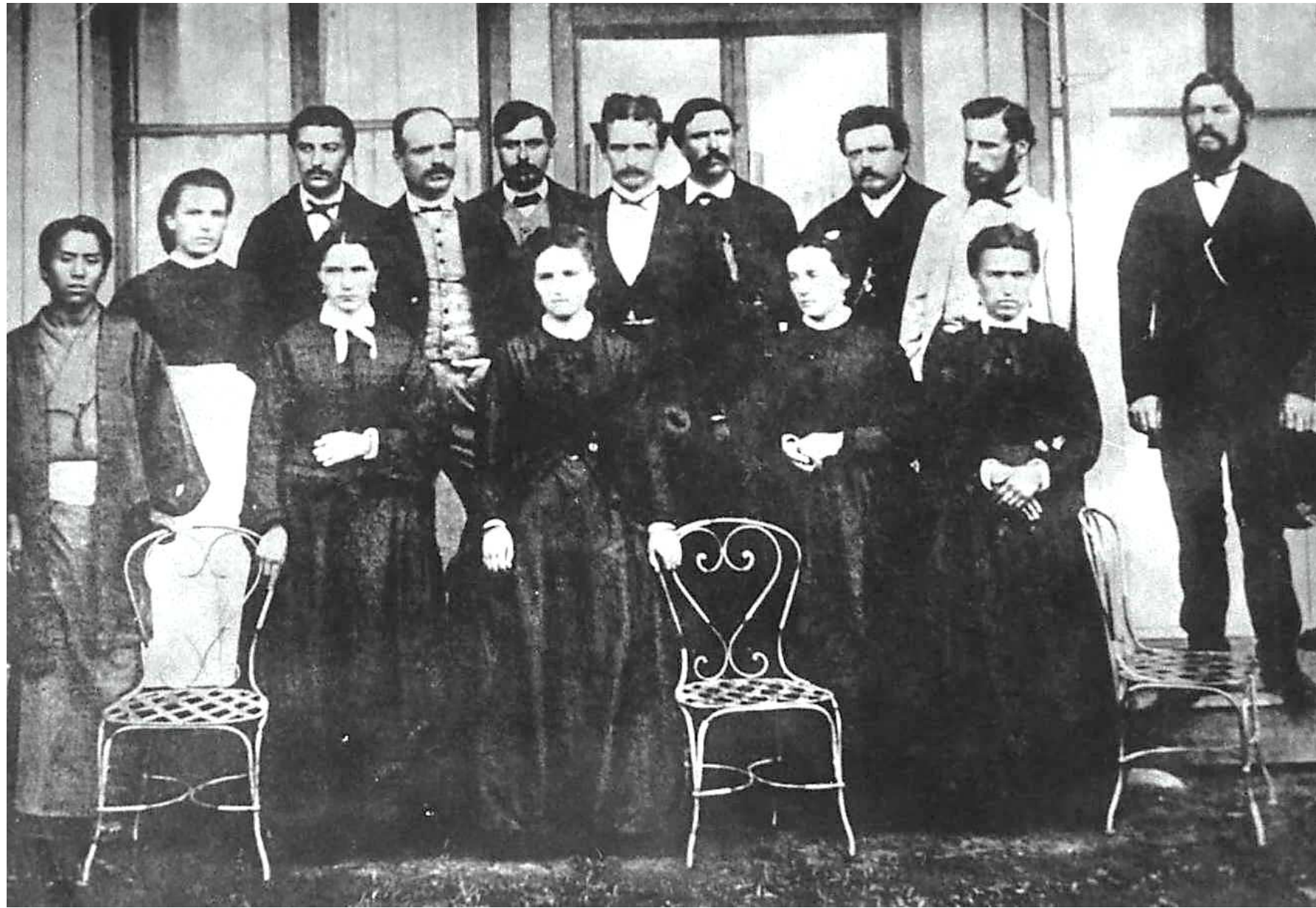
03957

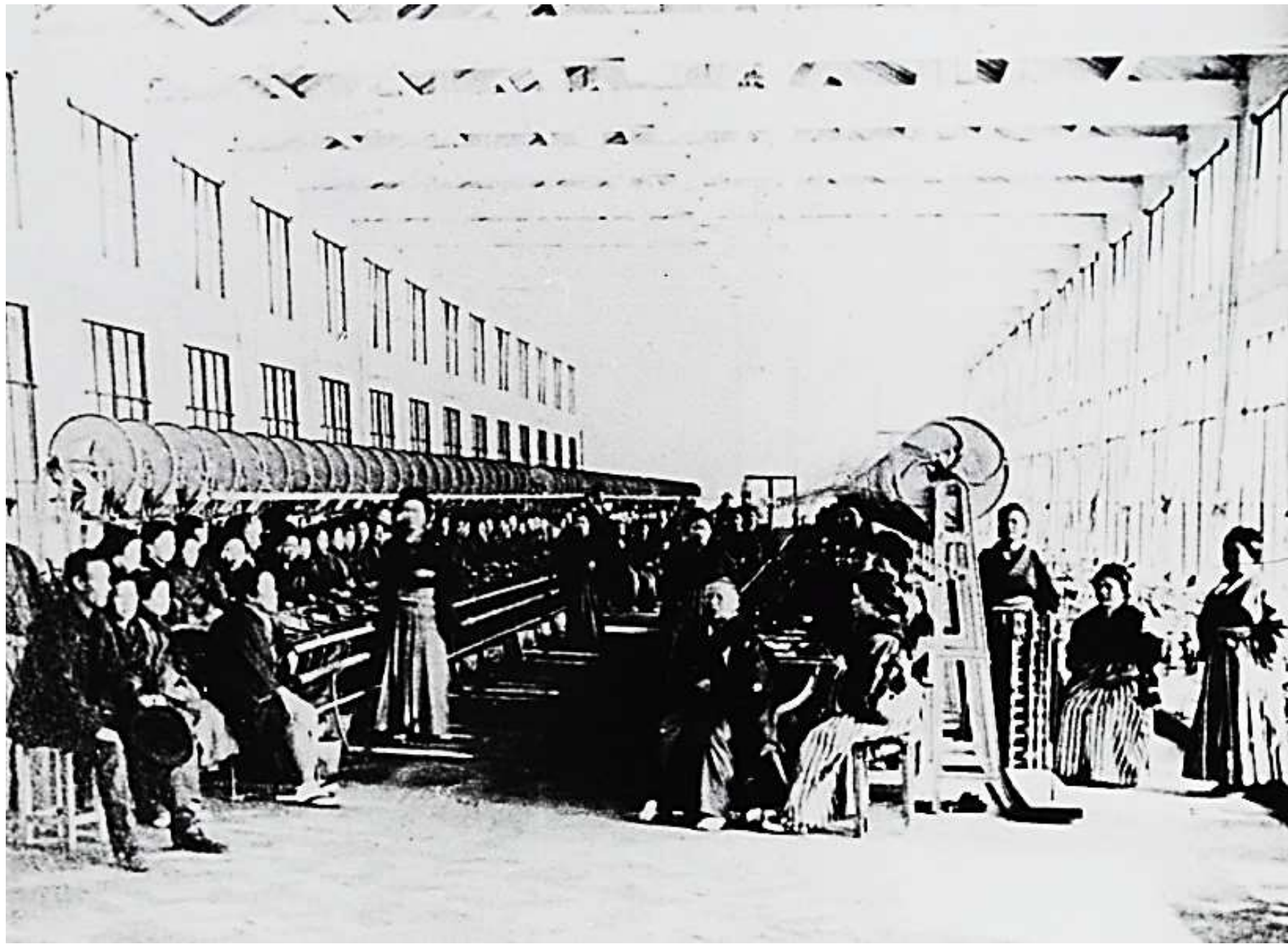
BC BACC

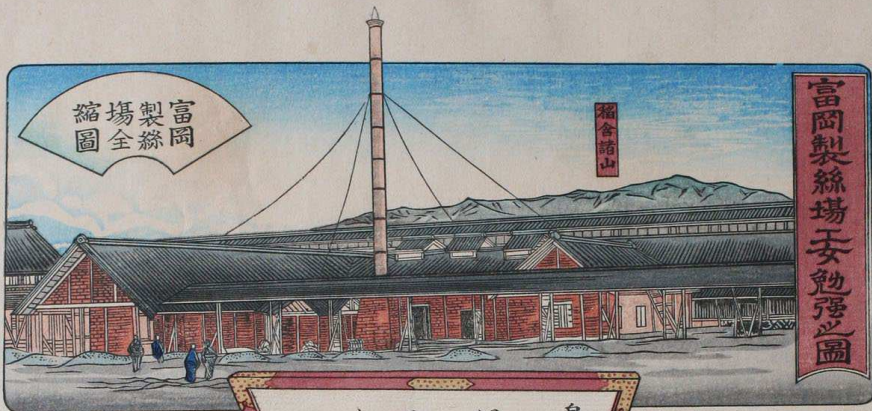












皇后宮
御詠

いづれも
やみの
をくぐり
大空の
羽衣の
まはる
まはる



原富岡製絲場の需めに應じ明治六年出版の錦繪を再版す 天正十五年 渡邊商店

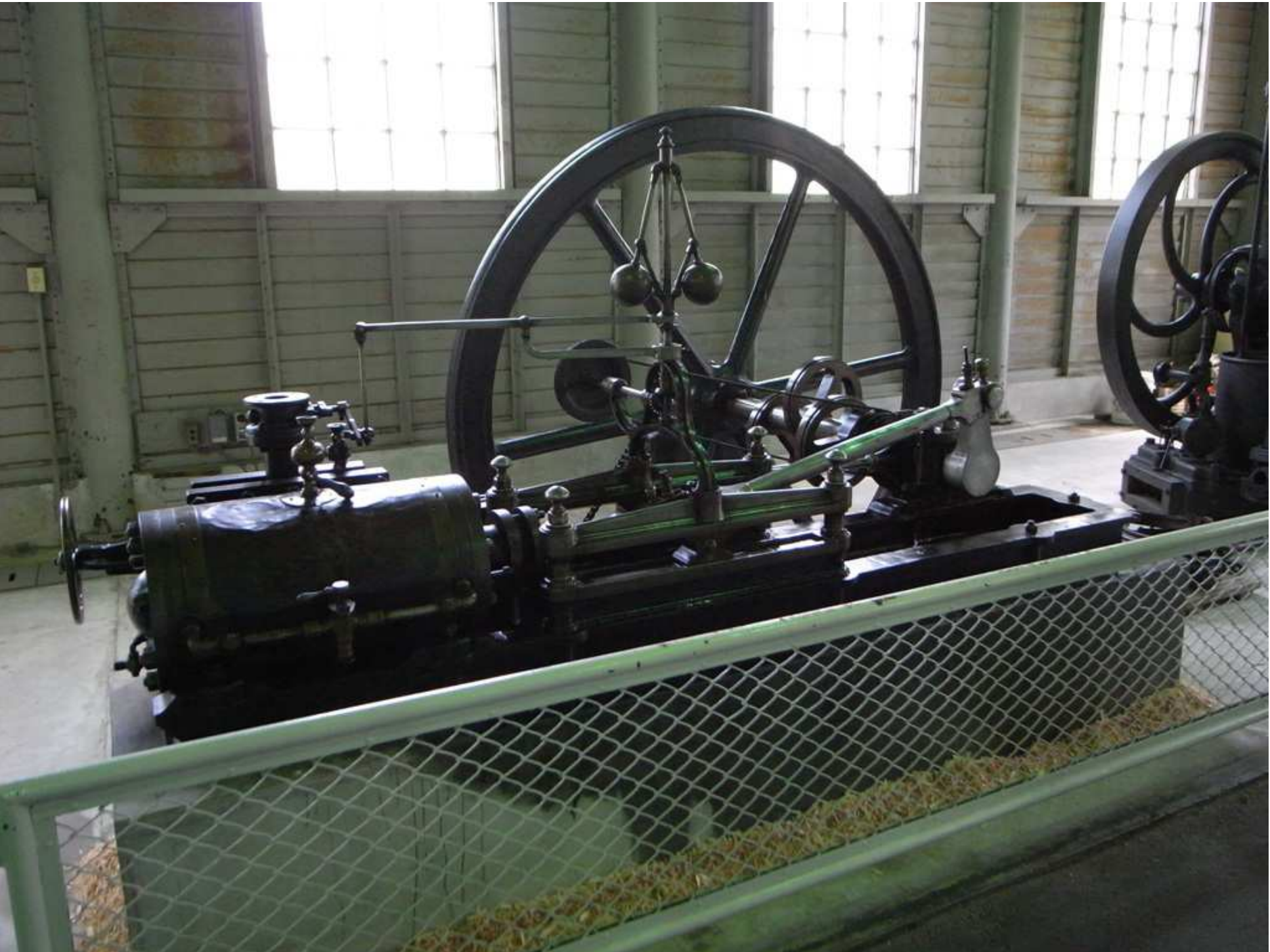
朝倉筆
日本橋通二百十九番地
出板人 大倉孫兵衛

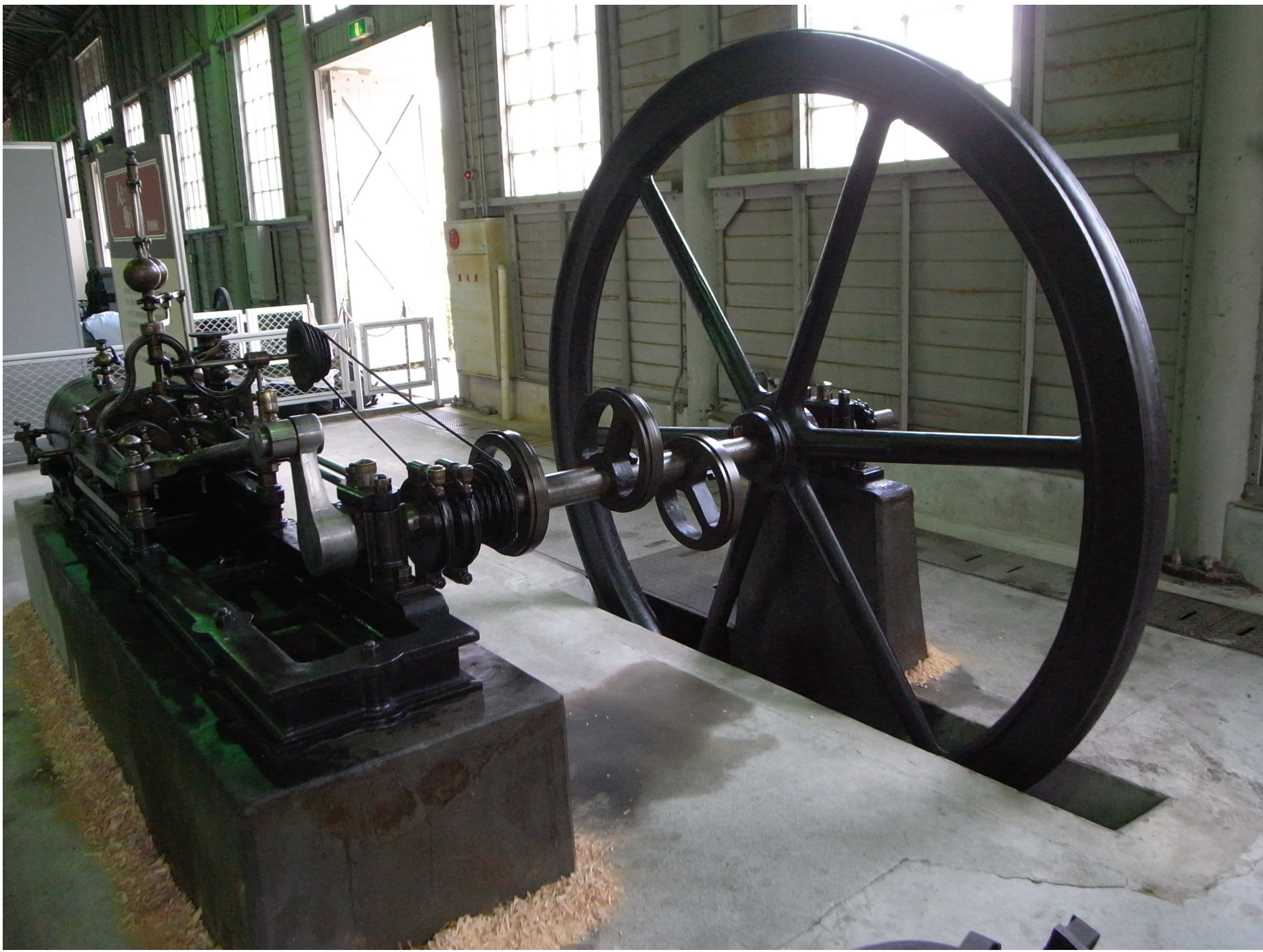




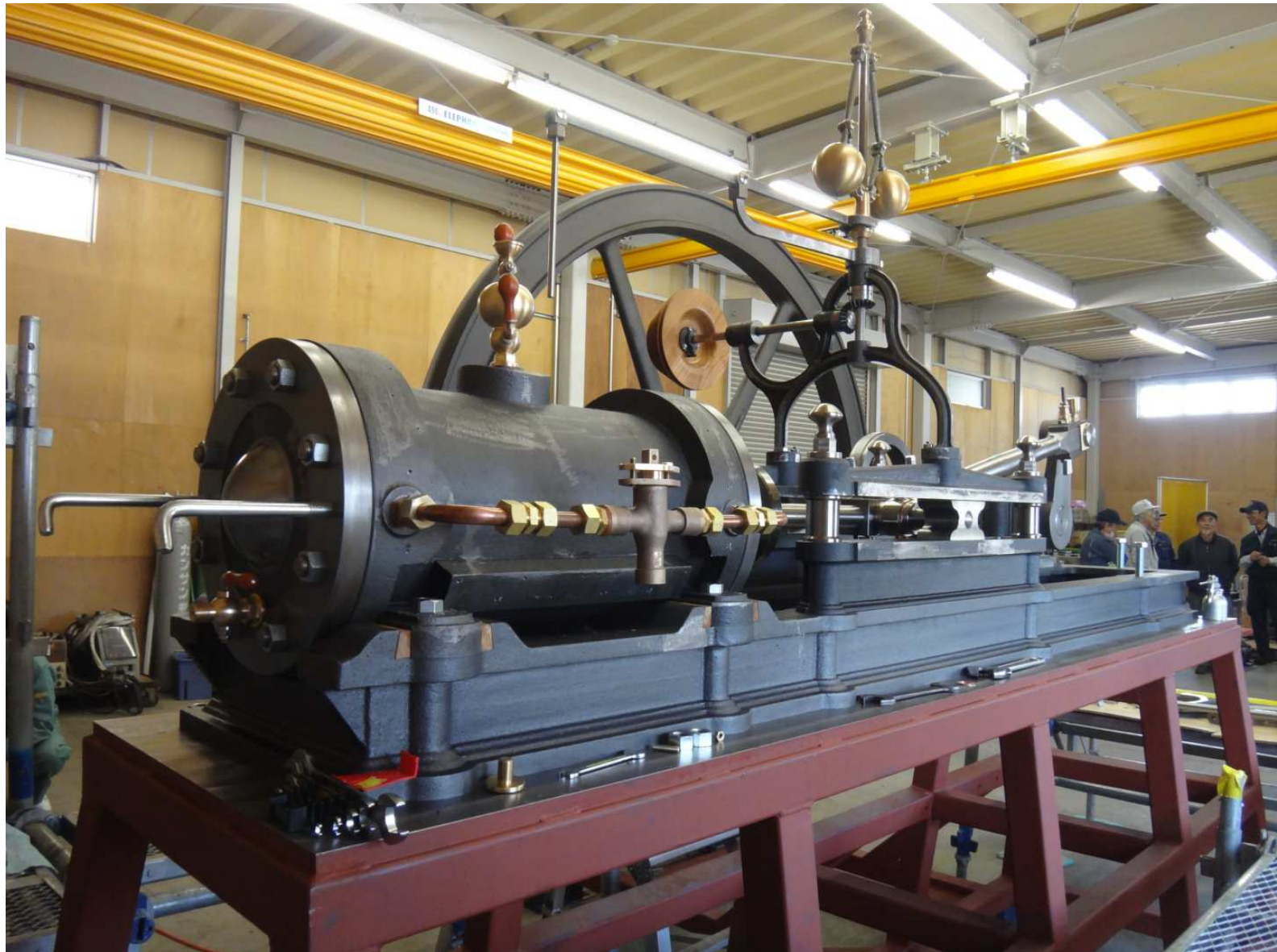
行啓記念碑







復元したブリュナエンジン



MARQUE DE FABRIQUE DE LA FILATURE DE TOMIOKA

TO

大日本上野國岡製絲所
FILATURE DE TOMIOKA
PROVINCE DE KOTSUKE
JAPON



Fondée en 1872

Sous la direction de M^r Brunat Français

Nos produits portent
toujours notre
marque de fabrique



大日本印刷局製

TO

大日本上野地方
富岡製糸所
日本

1872

フランソア・ブリュナ 氏の指導の下で
設立した。

当工場の製品は常に当工場の商標
がついている。

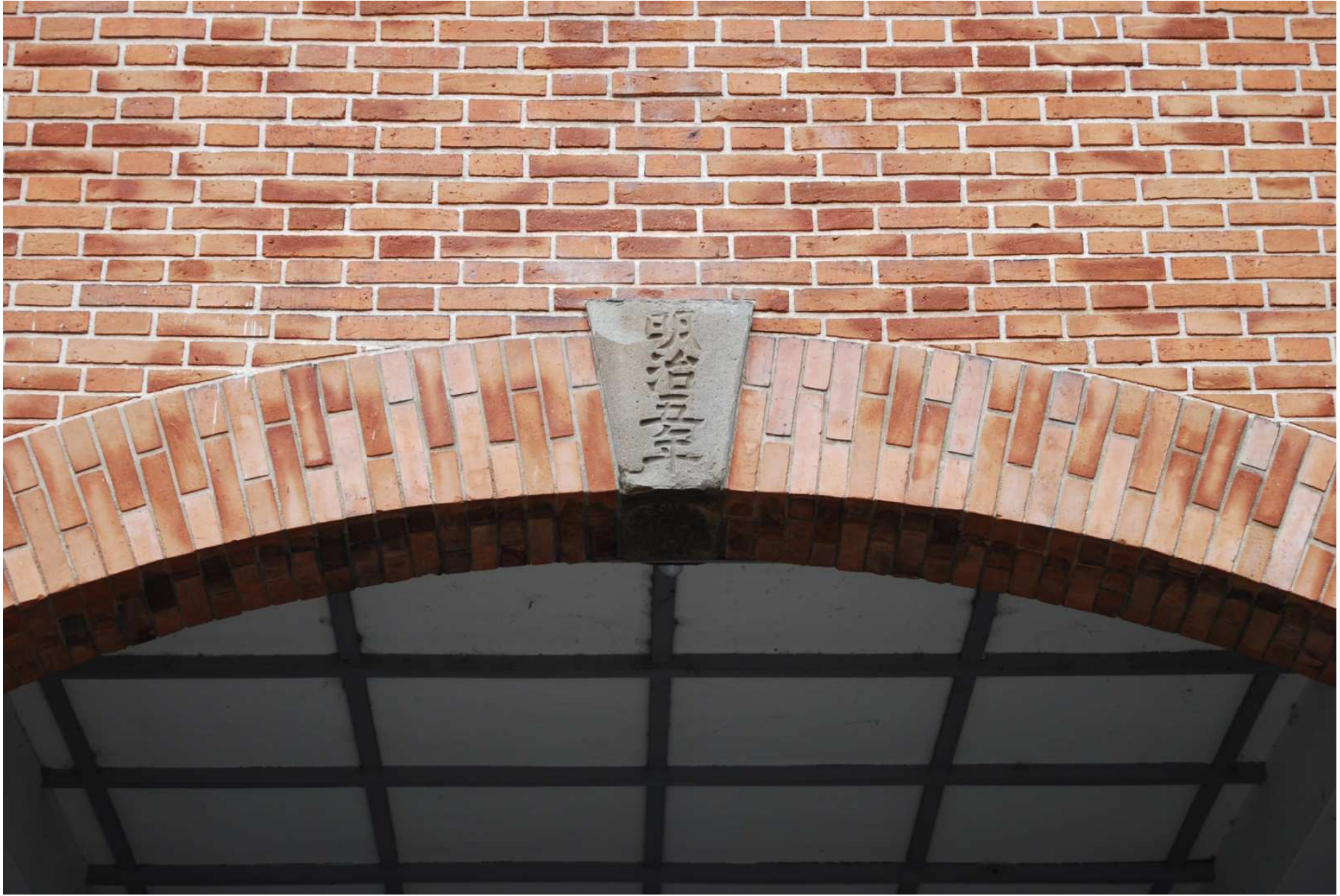


180mm×132mm

登 録 証	第 壹 六 壹 號
要 點	全 形 繪 刷 印 四 二 三 一 十 一 種 馬 字
商 品	第 二 十 六 種 生 絲
出 願	明 治 十 七 年 十 月 廿 日
登 録 日	明 治 十 八 年 六 月 八 日
專 用 年 限	明 治 三 十 三 年 六 月 七 日 迄

群馬縣下
富岡製絲所長心得
岡野朝治













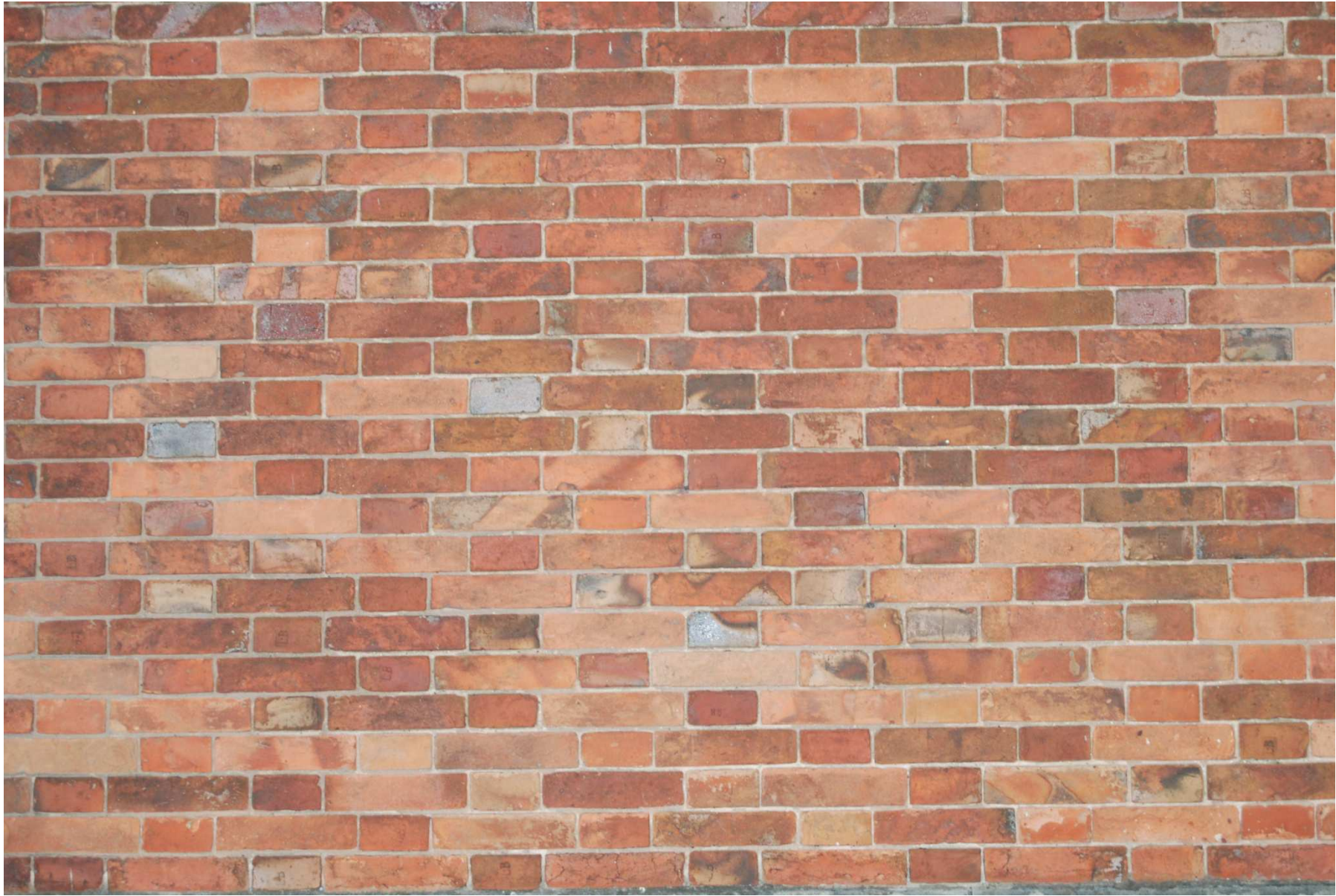




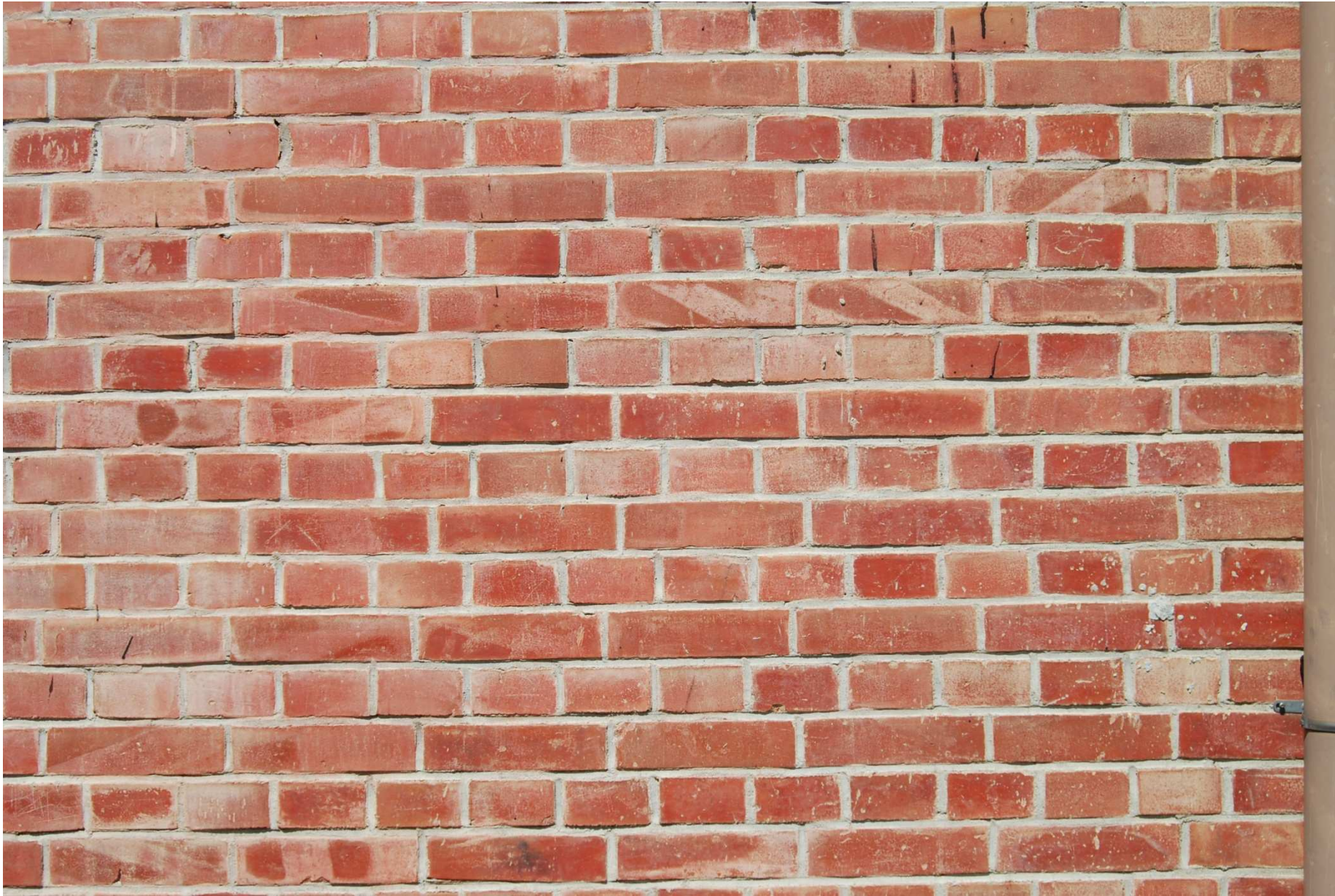




















行 營























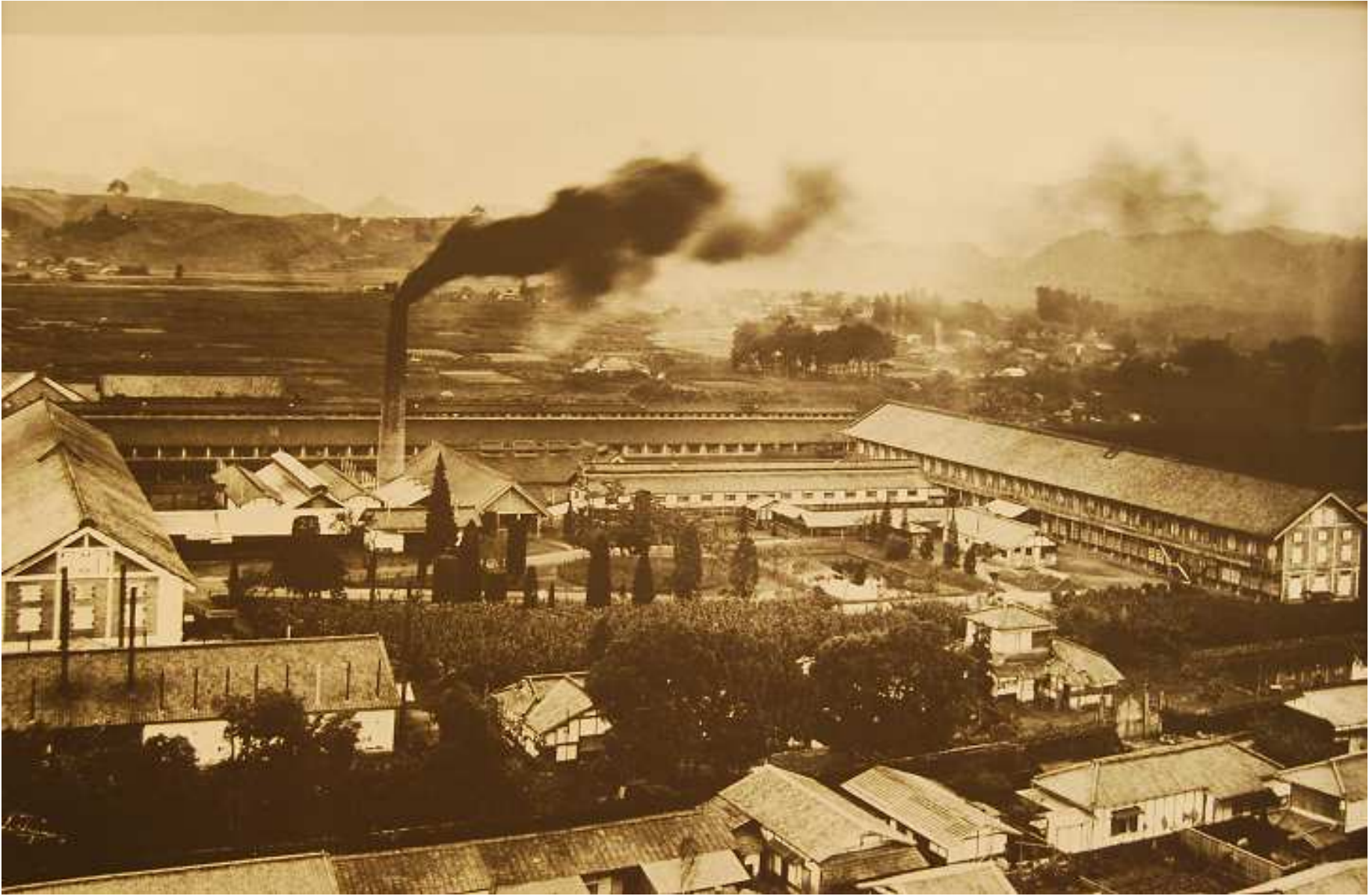






鉄水槽の部分拡大





明治13年度の上州の製糸所

動力源	製糸所数	社員	生産量
蒸気水車	4 社	6 人	5, 576. 49 kg
水車	3	23	2, 778. 88
踏転	1	18	167. 68
改良座繰り	37	405	198, 222. 94
富岡製糸場	1	452	3, 071. 11

上州の製糸所の特徴

- 改良座繰り製糸所が圧倒的
- 碓氷座繰精糸社（明治11年設立・碓氷社）
加盟県＝群馬、長野、埼玉、千葉、茨城、福島、
秋田、静岡、鳥取
- 北甘楽精糸会社（〃13年設立・甘楽社）
加盟県＝群馬、埼玉、千葉、栃木、岩手、福島、
秋田、岡山
- 下仁田製糸合資会社（〃26年甘楽社から独立）
加盟県＝群馬、長野

明治26年度の生産・売上高

名称	生産量	売上高
碓氷社	64,555.3kg	736,231 円
甘楽社	43,027.5	480,346
下仁田社	27,738.8	315,384
富岡製糸場	6,905.9	223,658

終わり